

協議会会員企業・団体名

- Apple Japan, Inc.
- 株式会社インターネットイニシアティブ
- NTTグループ
- KDDI株式会社
- ソフトバンク株式会社
- 日本電気株式会社
- 株式会社日立製作所
- 富士通株式会社
- 楽天モバイル株式会社

- (一社) 安心ネットづくり促進協議会
- (一社) インターネットコンテンツ審査監視機構
- (特非) 情報セキュリティ研究所
- (一社) 情報通信エンジニアリング協会
- (一社) 情報通信設備協会
- (一社) 情報通信ネットワーク産業協会
- (一社) セーフアーインターネット協会
- (一社) 全国携帯電話販売代理店協会
- (一社) テレコムサービス協会
- (一社) 電気通信事業者協会
- (一社) 日本インターネットプロバイダー協会
- (一社) 日本ケーブルテレビ連盟
- (一財) 日本データ通信協会
- (一財) マルチメディア振興センター
- (一社) モバイル・コンテンツ・フォーラム

2025年度 「情報通信の安心安全な利用のための標語」 募集

募集期間

2024年12月1日(日)～2025年2月28日(金)

詳細は下記アドレスもしくは二次元コードからご確認ください

<https://www.fmmc.or.jp/hyogo/>

問い合わせ先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門二丁目4番1号 虎ノ門ピアザビル4階

一般財団法人マルチメディア振興センター内 情報通信における安心安全推進協議会事務局

TEL:03-6704-5553 FAX:03-3528-8006

e-ネットキャラバン

■入賞標語は「e-ネットキャラバン講座」内で紹介します

e-ネットキャラバンは「安心・安全なICT(インターネット)活用」に必要な気づきを広めるための啓発講座です。小学3年生から高校3年生ならびにその保護者・教職員を対象に全国で年間約2,500回開催されています。

【お問い合わせ】一般財団法人マルチメディア振興センター e-ネットキャラバン事務局
TEL:03-6704-5553 Mail:e-netcaravan@fmmc.or.jp

学校の 取り組み紹介

「情報通信における安心安全推進協議会」では、総務省、文部科学省、警察庁、法務省後援のもと、各地域の総合通信局・総合通信事務所、教育委員会等の皆様と連携し、子どもたちの「情報モラル」や「ICTリテラシー」を高めるための取り組みとして、毎年標語の募集を行っています。

2024年度の学校部門受賞校で、当活動に賛同
いただいた学校の取り組みを紹介します。

後援



大阪府立八尾支援学校(大阪府)

◆ 昨年度の支援学校入賞が取り組みの後押しに!総務大臣賞を受賞

★ 標語作成を生徒の当事者意識を高める機会として活用

本校では「基本的な生活習慣等の基礎的な力や豊かな人間性など、心とからだの健康をめざした「生きる力」を育む」を教育方針に掲げ日々支援を行っています。その中で、GIGAスクール構想以降学校や家庭でスマートフォンやタブレット型端末を使う機会が増え、安心・安全にインターネットを使うための学びも大切な要素となってきました。実社会においてもインターネットにおいても、自他共に尊重しあって生きていく社会をつつていくために、皆が当事者であるという意識をもっと強く持つ必要があると考えグループで協力して標語を作成し応募するに至りました。

★ 情報と国語の学びを融合し、自身の思いを作品で表現

情報モラル教育としては、総務省や文部科学省が公開しているコンテンツやリンクを活用しながら考えを深めていったり、外部講師を招いてスマホ・SNS安全教室を聞いてもらったりする取り組みを行っています。今回の標語作成では、情報の授業で学んだ情報モラルに関する考え方を基に、国語の授業で学習した「押韻」「比喩」「倒置」などの表現技法を活用していくように展開を行いました。「自分たちがどのような社会を作りたいか」「どのようにすれば自分の思いが伝わるのか」を深く考えながら一生懸命取り組んでいる姿が印象的で、今後の学習活動への意欲喚起にも繋がっていると感じています。



★ 受賞の喜びを共有し、新たなステージへ

今回の標語に限らず様々なコンクールに応募する機会がありますが、現状では高等学校主体の取り組みが多く募集条件と学習段階が一致しにくい傾向にあるように感じます。そのような中、本コンクールにおいては昨年度支援学校が入賞している点が大きな後押しとなりました。総務大臣賞受賞が一月以上たっても色あせることなく学校の中は喜びで溢れています。この喜びと興奮を今後の学習に昇華していく試みの一つとして、今回表彰された標語を一人一画ずつ書いて全員で表現作品を完成させる「リレー習字」を行いました。作成した作品は校内に掲示し、他生徒や保護者に触れもらうことで標語に込めた意識の共有を図っていきたくと考えています。



中傷に 大中小は ないでしょう

山形県立ゆきわり養護学校(山形県) 標語作成者:金子 衣咲さん

◆ 山形県で初入賞!日々の学びが形に

★ 冬休みの宿題として活用。情報モラルを考えるきっかけに!

冬休み前に中学部・高等部生徒、保護者を対象に「情報モラル研修」を実施した際、研修後の課題として冬休みの宿題に標語作成を取り入れたのが応募のきっかけです。生徒にとっては初めての取り組みでしたが、特に戸惑うことなく標語づくりと向き合ってくれたと感じています。「先生、すごくいい作品ができたよ!」という生徒もいれば「考えるのが大変だった」と話す生徒もあり、反応は様々でしたが全員で情報モラルについて考える良い機会になったと感じています。



★ 日頃の取り組みにより安心安全な利用環境を構築

標語以外の情報モラル教育としては、GIGAスクール構想以降情報モラルに関する問題や家庭での悩みが増えているため、効果的な教育に向け3年ほど前から毎年山形県警察本部より講師を招き情報モラル講話を行っています。それにより、生徒たちは情報モラルについてより深く理解し、保護者の方々も安心して子どもたちのICT利用を見守ることができるようになったと感じています。

★ 校内が盛り上がり、情報モラル教育が加速

今回の取り組みで「東北総合通信局長賞」を受賞しましたが、局長自ら当校にお越しのうえ表彰いただき、また、地元の日形新聞に記事を掲載いただくなど私たちが想像していた以上に大きな反響がありました。学校としても、校内に入賞作品が掲載されたポスターを掲示するとともに表彰式のビデオメッセージを生徒と一緒に見ることで、生徒や教員から「こんなにすごい賞をもらったんだね!」という声がいっつも聞こえてくるなど、校内全体の意識の高まりを感じることができ、今後の情報モラル教育への大きな手応えを感じております。



SNS 優しい言葉を かけようね

北海道石狩南高等学校(北海道) 標語作成者:秋野 智柊さん

◆ 情報モラル教育を通じ社会貢献できる人材の育成を

★ 情報モラル教育のまとめとして標語を活用

本校は、情報モラルの授業のまとめとして過去より何度も応募しており、2020年度には学校部門総務大臣賞をいただいております。応募のきっかけは、情報モラル教育のまとめとして出来ることを探していた時にホームページを拝見したことです。また、コンピュータ部では「コンピュータを学ぶことで社会貢献する」を一つの軸として活動しています。その一つとして「情報モラルを学び、多くの人に伝える力を養う」という理念のもと、コンピュータ部の生徒も参加した取り組みとなります。

★ 標語作成を「共感を得る伝え方」の学びの場に

標語作成を指導するにあたり「自分の身近にある題材を使う」ことの大切さや「共感を得る伝え方」などを大切にしています。また、模倣ではない自分自身の考えを重視するよう伝えています。生徒はWEBに掲載されている過去の入賞作品を見て「思った以上に面白い!」と反応し、創作意欲が刺激され、自分なりに考え楽しみながら標語を作成していました。



★ 主体的な学びを通じて、自ら創造する生徒を育成

炎上やネットでのいじめなどはほとんどなくなりましたが、ネットの依存については深刻な状況にあると思います。また、生成AIとの上手な付き合い方も考えなくてはいけないと感じています。本校は文部科学省のDX推進校となっており、新しい機材やAIなどを使い教育を進めたい中、情報モラルにもステップアップしていく必要があります。今回の受賞は生徒の意識を高める良い機会となりました。今後も「使いながら学ぶ」という本校の基本的な考えを継承しつつ、生徒の主体性や創造性を育めるよう取り組みを進めたいと思います。



確かめて ホントの言葉 デマとウソ

常陸太田市立誉田小学校(茨城県) 標語作成者:深沢 杜杏さん

◆ 児童の主体性を高め、可能性を引き出す教育を推進

★ 児童自身が考えるきっかけとして標語を活用

最近になり児童間のスマホやオンラインゲームによるトラブルが増えており、「児童自身に具体的な問題について考えるきっかけを与えたい!」と考えていたところ、タイミングよく標語の募集案内が届いたことが「取り組みきっかけ」となりました。今回は4年生から6年生までの授業で取り組みましたが、皆が楽しみながら標語を作っていたことが印象的でした。

★ 情報モラル教育を通じ、児童の成長をサポート

毎年5、6年生および保護者を対象に外部講師を招き情報モラル教室を行うなど、情報モラル教育にも力を入れ取り組んでいます。そのような中、今回の受賞でより多くの児童の情報モラル意識の向上が図れ、とても有意義な取り組みになったと感じています。本校は、教育重点目標として「児童が考え、調整しながら活動していくための指導を工夫・充実し、児童の向上心を高める」を掲げ、すべての教職員が目途達成に向け取り組んでいます。これまでの教育活動の中で子どもたちの主体性が高まった結果、受賞につながったと考えています。活動以降、SNSやネットにおけるトラブルが減っていることを実感しています。



★ 地域から信頼される学校をめざして

今回、関東総合通信局長賞を受賞し作成した児童は大変喜んでいました。全校児童を集めた場で表彰するなど学校全体で喜びを分かち合いました。本校では情報モラルに限らず、いじめを無くすことを目的に、毎年「人権集会」を開き人権標語を作成するという取り組みも行っています。これからも様々な活動を通じて、地域から信頼される学校となるよう取り組んでいきたいと思ひます。



スマホより 家族との時間を 大切に

伊那市立長谷中学校(長野県) 標語作成者:後藤 優空さん

地域に愛される学校へ!子どもたちの未来に向けて

★複合的な教育を通じ生徒の思いを形に

応募のきっかけは、長野県教育委員会経由で届いた募集チラシになります。三年生技術分野の情報の技術のまとめとして、学習内容と世の中の出発事をつなげて個人的視点で考える学びを追求している中で今回の募集が目にとまり応募しました。標語は、技術分野の学習に留まらず国語など他教科の学びと結びつけながら短い言葉に要約し表現するため、生徒が言語化する中で自分自身の考えを表しやすく、気づきや学び、自己表現の場としても良い手立てだと思います。

★標語を手段として生徒の成長をサポート

本校では、講師を招いた情報モラル講演会や「SNSにおける言葉の使い方」「個人情報の取り扱い」「著作権の理解」などをテーマに、生徒同士が意見交換しつづつ学ぶ場としてのワークショップを開催しています。技術分野はテクノロジーについて学ぶ中に著作権や表現の問題があり、相互に関係し合う環境にもあります。現代の生活に欠かせないテクノロジーの良い面と危険性を踏まえながら「この人がこうなってくれないかな」「こんな風に使ってくれたら安心安全だな」と、テクノロジーの先にある相手を考える力を育み、また、これまでの学びや体験を自分自身の生活に結びつけてもらうための一つの手段として、今回は標語応募を活用しました。

★生徒を尊重し、成長するための教育をめざして

本校は、「精神力の強い何事にも耐え得る若人たちを育てる」を使命に掲げ、また、「中学生の力で地域を元気に!」という思いを持ち日々活動しています。生徒の力を伸ばすためには、教える側も従来の教え方を見直しより効果的な方法を探し続けるべきです。何事も大人の都合で決めるのではなく、生徒自らが考え判断し、行動する力を育むことが大切だと思います。そのためには「テクノロジーを安全に使いこなすスキル」や「思考力や判断力を通じて自らの行動に結びつけるための教育」が欠かせません。この観点からも、標語作成活動は生徒の当事者意識と創造性を高める絶好の機会であると感じています。



信越総合通信局長賞

やめとけよ そのワンタッチ 大丈夫?

富山県立砺波高等学校(富山県) 標語作成者:永田 悠登さん

生徒が考える力を育み、県内最先端の情報教育校へ

★教科書に留まらない情報教育の実践

毎年応募していますが、標語を作成する過程で「情報の正否」「適切な行動」などを考えることで、教科書では伝えきれない要素を補うことができ良い施策だと感じています。もちろん、授業を通して教科書の内容を念入りに教えることも必要ですが、情報リテラシー教育はそこに留まることなく指導すべきだと思います。限られた時間の中で、生徒が立ち止まり深く考えるための良い機会でもあることから引き続き取り組んでいきたいと思っています。



★様々なコンクールを活用し、学びの機会を創出

本校は、情報の授業を二年生で行っており、標語作成も情報の授業に合わせて二年生の冬休みの課題として取り組んでいます。情報のカリキュラムは複数の科目に細分化されているため、授業の中ですべてを網羅するのは困難であり、補完も兼ね様々なコンクールへの応募を活用するなど、年間を通して教えることを重視し取り組みを進めております。

★成功体験を通じ、情報モラル教育の底上げに貢献

今回はGoogleフォームを利用し代表作品の選考を行いました。投票の場で「よく考えたね!」「絶対にこれだ!」など生徒の意見が飛び交っていました。「友達の発想力を認める」「自分の考えを主張する」といった瞬間、生徒は多少なりとも情報モラルや情報セキュリティを意識しているため、取り組みの有意義さを実感しています。また、生徒が「楽しみながら学んでいる」ことが印象的でした。今回、北陸総合通信局長賞を受賞し表彰やインタビューをいただくなど大きな成功体験となりました。今回のような取り組みを通じ、本校が県内最先端の情報教育校となり富山県全体の情報モラル教育の底上げに寄与できればと考えています。

北陸総合通信局長賞

「笑」だけじゃ すまされないよ その言葉

静岡県立掛川特別支援学校御前崎分校(静岡県)

標語の取り組みを通じた意識向上と教師生徒の新たな関係

★標語づくりで育まれる生徒のリスク意識

当校は、昨年に引き続き「東海総合通信局長賞」を受賞しましたが、本取り組みを通じ言葉だけではなく行動に繋げる意識が大きく高まったと感じています。例えば、生徒に動画を見せ問題提起すると「携帯のスクリーンショットを撮る」「信頼できる人に相談する」といった回答がすぐに出るようになり、また、写真投稿についても「個人情報漏えい」「肖像権」などリスクの部分まで考えられるようになりました。

★「生徒と生徒」「教師と生徒」間の対話が深化

入賞の効果を感じる部分では、授業時など教師が一方向的に話をするのではなく以前にも増して対話を重視するようになりましたし、生徒においても教師から言われるまで待つといった受け身の姿勢ではなく「SNSについてどう思う?」など生徒同士でディスカッションする場面が増えたと感じています。デジタルネイティブ世代らしくタブレット端末の共有機能やデジタルホワイトボード機能など、アプリを積極的に活用した意見交換も活発に行われるようになりました。



★自由な発想を引き出すためデジタルツールを活用

標語づくりの際、紙ではなくGoogleのアンケート機能を利用しています。これにより生徒は何度でも記入できますし、文字を書くのが苦手な生徒もタブレットを使い簡単に入力できます。また、周囲を気にせず自分の思いを自由に書けるのも大きなメリットです。出来上がった作品は、授業の中で発表・評価することで生徒の「やる気」が高まる好循環が生まれ、さらに、デジタルツールを使うことでデータが残る、授業の振り返りにも活用することができとても便利です。

東海総合通信局長賞

気をつけて 一生消えない その投稿

神戸学院大学附属高等学校(兵庫県) 標語作成者:宮下 瑛奈さん

個性と可能性を育み、社会貢献できる人材の育成をめざして

★様々なコンクールを活用し、生徒の成長を促進

本校の取り組みは、2001年に一人一台の端末を導入して「生徒の発表経験の増加と表現力の向上」や「卒業後にリーダーシップを発揮できる人材の育成」を目指し、生徒作品を様々なコンクールに応募したのが始まりです。生徒が「情報社会に参画する取り組み」として活用しており毎年たくさんの作品が賞をいただいています。標語においても「総務大臣賞(個人部門)」「近畿総合通信局長賞」(2年度目)などを受賞しています。取り組み時には「まずはやってみよう」ことを意識して指導しています。生徒自身が「昨年はこちらけど、今年はこちらでみよう」と自分なりに考え、学校生活で得た知識や経験とリンクさせながら少しずつ成長していくことが大事だと考えています。

★標語の取り組みを通じて、生徒の気づきや探究心を刺激

標語の取り組みでは、幅広いテーマから生徒自身が一つを選ぶ過程で「気づき」が生まれます。例えば「歩きスマホ」に関する作品を作成している中で「あれっ、自分もやっているな。気づけない」と感じることに意味があり、生徒に考えるきっかけを与え探究心を刺激します。中学・高校の年代では、授業で習うことと生徒自身の経験が紐づかず教科書の中だけの話になってしまうことがあります。取り組みを通じた生徒の成長を期待しています。



★未来を見据え、教育から広がる社会貢献をめざして

本校は、一人一台というICT環境のバイオニアです。今ではその学習利用は当たり前になっていますが、一歩進んだ活用を考えたときそれは「社会貢献」だと思います。本校は、生徒が夢を見つけ「理想とする自分」になる夢を叶えるために「全力で取り組める環境」を整えています。標語の取り組みは、生徒自身の「啓発」だけではなく「洗練された言葉づかいのトレーニング」「知識のまとめと表現」「情報社会に主体的に参画する態度と意識の醸成」、さらには世の中に役立つ「社会貢献」という多くの点において通じていると思います。私たちは、これらも切磋琢磨しながら活動の輪を広げ、盛り上げていけるよう取り組んでいます。

近畿総合通信局長賞

SNS 優しさあれば 憂いなし

広島大学附属福山中・高等学校(広島県) 標語作成者:小林 咲緒さん

国際社会で活躍できる人材育成をめざし取り組みを推進

★生徒の自主性を尊重し中国総合通信局長賞を受賞

本校は、生徒の自主性に重きを置き、生徒自身の判断で行動するという教育方針を掲げ活動しております。その中で、今回の標語応募は二年生の総合的な探究の時間「創造」と「提言」から前者を選び、且つ音楽、美術、書道、国語と4つあるカテゴリから自分が学びたい科目として「国語」を選んだ生徒の取り組みの一環として実施いたしました。元々国語が好きで言葉に興味のある生徒による取り組みであったことから、生徒自らが過去入賞作品を分析し、言葉の使い方や伝え方を標語作成に生かすなど、積極的に取り組み良い作品を生み出してくれたと思います。

★段階的な教育を通して、安心安全なネット利用を推進

本校は、全国に先駆け中高一貫教育に取り組んだ学校であり、情報モラル教育においては中学一年生の段階から実施し、高校では各学年で内容を企画できるロングホームルームを活用し大学の先生を招いて講演いただくなど、生徒が安心安全にインターネットを利用できるように取り組んでおります。また、標語に限らず生徒が様々なコンテストに自由に応募できる環境を整え提供するなど、年代に応じた学習環境となるよう取り組みを進めております。

★自主性を育む教育にコンテストを活用

今回賞をいただき作成した生徒はとても喜んでいました。学校としても大変光栄ですし、今回の取り組みにより生徒の表現力が磨かれ、さらに情報モラルに対する当事者意識が生まれるなど大きな成果があったと感じています。その反面「引用の範囲を超えていないか」「法に則り対応できているか」などの点において徹底が難しい面があることも感じています。今後も、標語を含め様々なコンテストを活用し生徒の自主性を育むとともに、日本のみならず国際社会で活躍できる人材の育成に向け取り組みを進めていきたいと思います。



中国総合通信局長賞

「まあいいや」 一度の公開 一生の後悔

鹿児島県立鹿児島中央高等学校(鹿児島県) 標語作成者:植松 そらさん

SSH指定校として追求する、高度な情報モラル教育

★生徒の持つ知識を正しい方向に導くために標語を活用

本校は、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校として発表の機会も多いため、情報モラル教育に力を入れています。生徒の持つ情報モラルの知識は高いレベルにありますが、その知識を適切な方向に導くには、段階的な取り組みを通じ繰り返し生徒に考えるきっかけを与えることが必要となります。そのために、情報1の授業では「気づきを与えるきっかけ」として標語など様々なコンクールを活用しています。今回の標語の取り組みでは、情報モラルの本質を追求した作品が生まれ、また、普段の学校活動では推し量れない力を持っている生徒を発掘する良い機会になったと感じています。



★学校の役割を再認識!教員、生徒両面での教育を推進

他の情報モラル教育の取り組みとして、毎年、生徒に対し年度当初に外部講師を招いてのスマホの安全利用教室を開催しています。今年度は新たな取り組みとして、教員に対するSSH活動を行う上で不可欠な著作権に関する講座を開催し、学んだ内容を授業で生徒に還元することにも取り組みました。昨年、高校生による電子マネーを用いた詐欺のニュースが報道され、学校が果たすべき役割の重要性を再認識しました。本校としても、情報モラルに関する活動の手を緩めることなく取り組みを今後も進めていきたいと思います。

★SSH指定校としての責任を再認識!更なる高みをめざして

今回、九州総合通信局長賞を受賞、表彰いただき、とても光栄である反面、重責を再認識しました。先に触れたように、本校はSSH指定校として情報モラル教育にも高い水準を求め活動しています。また「著作権」「引用ルール」「外部発表時の発言の仕方」などにも力を入れて指導しています。これら本校の取り組みを通じて生徒がより高い意識を持ち情報モラルに向きあってくれることを期待しています。

九州総合通信局長賞

その投稿 生涯消えない 「ストーリー」

高知市立横浜中学校(高知県) 標語作成者:川添 太陽さん

学校・生徒・PTA 三位一体の取り組みで初受賞へ

★親子で考えるスマホ・SNSとの向き合い方

本校では、一年間のPTA活動の一つとして親子行事を企画・運営しており、活動の中で保護者から「子どものスマホ利用やSNSの問題をよく理解していない」という意見が寄せられたことから、一年生の時に講演会を検討したことが始まりになります。講演会は「e-ネットキャラバン」を活用し、その中で標語の話があったことから、授業の一環として取り組み応募をさせていただいたことがきっかけとなります。



★標語づくりから見えた情報モラルへの深い理解

今回が初めての取り組みのため、もう少し戸惑いや苦労があるかもしれないと思っていましたが、実際にはとても意欲的に取り組み、私たち教師の想像より短い時間でたくさんの標語を作っていました。情報モラルは授業で聞いて理解しているもの「自分事として捉え切れていない」「自分はその様なことには引かからない」と楽観的に考えている生徒が多いのではないかと感じていました。しかし、取り組みを通じ普段から子どもたちがSNSの問題を理解し、きちんと考えていることが見えたのはとても大きな収穫でした。

★子どもたちの思いが形となり、四国最上位賞を受賞!

今回「四国総合通信局長賞」をいただくことができました。この取り組みは一年生のPTA活動から始まり受賞に至ったため、生徒だけではなくPTAの方々もとても喜んでくださいました。この結果は、皆が一体となり取り組んだ成果でありとても誇らしく思います。授賞式の模様が地元テレビ局で放映されたこともあり「すごいね!」との声もたくさんいただきました。何より、子どもたちが思っていることを標語という形にして応募したものが四国最上位賞に選ばれたことが嬉しかったです。

四国総合通信局長賞

失うよ その投稿で 親友を

那覇市立寄宮中学校(沖縄県) 標語作成者:新城 麻里奈さん

自分ゴトとして考える土台づくりに標語を活用

★情報モラル教育の一部として標語づくりを

本校では情報モラル教育を重要視しており、主に技術の授業でネットモラルを扱っています。一年生時は特別活動としてネット依存テーマにした講習を行うなど定期的に情報モラルを学ぶ機会を設けています。毎年沖縄県警の担当者によるサイバー犯罪講義を行っています。標語づくりは二年生時に行っており、授業の中でワークシート形式で取り組んでいます。

★楽しみながら、言語理解を促進

標語を作成する際、最初に過去入賞標語を使った「穴埋めクイズ」を行います。「空欄に入ることを考える」といったプロセスを踏むことで「思ったよりできる」「身近な言葉だ」と感じることで、言葉や標語への理解が進んでいると思います。私は、本校着任前から情報モラル教育への標語活用を進めており過去には受賞経験もあります。それらの経験を生徒に伝えるとともに「頑張って賞を取ろう!」と話をしたところ、生徒みんなが意欲的に取り組んでくれたのでとても心強く嬉しかったです。



★生徒自身が考え、成長するために

本校では、「標語募集があるから作りなさい」ではなく、ネットでの事件や事故が増えているから標語を活用した啓発活動が行われているといった背景や、全国の小中学生が実際にネット犯罪に巻き込まれている数値などを伝え、「何故このような標語が必要なのか」を考えてもらうようにしております。生徒自身が考えることで「自分に関係がないことでは無い」という思いや「自分ゴト」として捉える姿勢が育まれ成長していると感じています。

沖縄総合通信事務所長賞

炎上中 叩くあなたも 着火前